

# 猪 突 新 聞

2008 年  
7 月 13 日  
日 曜 日  
発行元 執筆  
原田 燎 太郎  
編集  
吉田 亮 輔  
加藤 拓 馬  
印刷  
早稲田 大学  
西尾 雄 志

# 原田 燎 太郎 引 退

## 「仕事」に専念とは

### キャンパー引退宣言

多くの皆さんに伝えずにきた、JIAの危機と僕の責任について率直にお伝えします。

僕は、JIAの責任者として、JIAの方向性にはっきりとした認識を持ってきませんでした。そのために、オフィスのスタッフに対しては、明確な役割と責任を与えることすらできていません。財務責任者としての責任も果たせず、寄付者から頂戴した資源の分配も、いい加減に行われています。経営体としての最低限の要件すら満たせないこのような状況に対してスタッフの間に大きな不満が高まっています。愛想を尽かした多くの同志が職場を去って行きました。

キャンパの質が低下している原因も貧弱なマネージメントにあります。

目的を共有できず皆が思い思いのことをバラバラにやっている感もあります。きちんとキャンプを準備できない現場のリーダーも出てきてしまいました。十分なミーティングもしないままキャンプに入し、混乱をきたすこともありま

す。そして、僕たちはJIAという組織に誇りを持つことができなくなりました。JIAの責任者として、僕は、活動家から経営者へと自らを変革しなければなりません。

これまでの活動家としての経験や実績はマネージメントにほとんど役に立ちません。それらは、マネージャーになることを妨げる弊害にすらなりました。僕は3つの「仕事」に責任を持つことで、JIAをしっかりとした経営体にて育て上げます。JIAのオフィシャルスタッフが誇りを持って「仕事」ができる職場をつくりたい。各地域のキャンパーたちが「仕事」を通じて成長できる環境をつくりたい。そのため、僕はマネージャーの「仕事」に専念します。

各地のコミュニティにおいて、キャンパーたちが明確な目標と責任を持って活動することで、人と人との間に共感を呼び起こし続けるための確固とした基盤を整備します。



この基盤整備を共に追求するオフィシャルスタッフには、明確な役割、責任、そしてモチベーションを与え、成果には必ず報います。寄付者やその他のステイクホルダーには、自分たちが出した結果及びそれを踏まえて今後追及する結果目標を十二分に説明します。これが、僕のこれからの「仕事」です。直近の達成目標としては、八月のカンファレンスで全ての仕事の核となる Core Value を宣言します。

これらの仕事を確実に遂行するため、僕はキャンパーを引退し、マネージャーとしてJIAの経営に努めます。

原田 燎 太郎

JIA

# 家 JIA 改革本格化へ

## 骨太構造改革と支援団体

「家」JIAは大きくなった。

広東・広西・雲南・湖南・湖北・貴州・海南の7つの省で活動し、ワークキャンプを五十二回開催し、ミニキャンプを含めると参加者は二千名近くになる。またJIAのネットワークに加わっている中国の大学は三十七、中国国外からの協力団体は十二。中国の大学は各地でJIAワークキャンプ地域委員会を形成しているが、それぞれの地域に特色があり、ハンセン病快復者の村人の里帰りツアーや市内旅行を企画したり、ハンセン病快復者の子供が通う小学校でワークキャンプを開催したりしている。JIAと協力する支援財団も増え、二〇〇五年より大変お世話になっている笹川記念保健協力財団に加え、ロックフェラー兄弟財団(アメリカ)、グローバルグリーングラントファンド(アメリカ)、オックスファム(香港)となっている。



財団	期間	支援内容
笹川記念保健協力財団	2005年～ 2007年	オフィスの運営費、ニュースレター ワークキャンププロジェクト費： キャンプサイトの調査費
ロックフェラー 兄弟財団	2007年6月 ～ 2009年5月	ネットワーク会議、 トレーニングワークショップ、 スタッフへのトレーニング、 スタッフの給料
グローバルグリーン グラントファンド	2007年	財政システム整備プロジェクト
オックスファム	2007年10月 ～ 2008年9月	トレーニングワークショップ、写真展、 JIA地区マネージメント委員会、 スタッフへのトレーニング、 チャリティーコンサート、運営費の一部

### JIAへの主な支援元団体と、サポート内容

二〇〇七年度はJIAにとってマネージメント上の問題を提起する年となった。JIAのスタッフはそれを痛感二〇〇八年度を「最後の改革のチャンス」の年」と位置づけている。



JIAのスタッフ GY

こうして広西オフィスは閉鎖され、JIAのオフィスは広東・雲南のふたつとなった。雲南オフィスにはカンミン、GY、レンミンチュウが、そして広東オフィスは原田燎太郎とライルホエイホエイ、チェンリボンが勤務することとなった。(二〇〇八年度よりホエイホエイが雲南に、GYが広東に異動)

### マネージメント問題

ここで問題になるのが、JIAのマネージメントだ。これまでの活動家の運営では活動の質を維持しにくくなっている。各地域委員会もJIAの方向性が見えにくいことで戸惑いをみせている。現在はJIAの運営方針や戦略、組織図、システムなどは四名のJIA理事会のメンバーの頭の中にあるだけで、正式に書かれたものはない。また理事の間でもそれぞれの考えが微妙に違う。広東と雲南にあるJIAのふたつのオフィスは1500km 離れており、そこにはスタッフ六名が働き、そのうち三名は理事を兼任する。JIAは正式な団体とはいえない運営状態になっている。コミュニケーションをより密にして

改革を行わなければならない。二〇〇七年度はJIAにとってマネージメント上の問題を提起する年となった。JIAのスタッフはそれを痛感二〇〇八年度を「最後の改革のチャンス」の年」と位置づけている。

南寧オフィス閉鎖

JIAは二〇〇八年八月末広西省南寧オフィスを閉鎖した。広西オフィス開設の目的は、広東・広西・雲南というJIAの活動の中心にあたる三省にオフィスを設けて活動を強化、そして貴州省への進出の足がかりにすることだった。広西オフィスへは原田が赴任し、小牧義美氏と笹川記念保健協力財団からの支援で運営していた。

しかし、それが二〇〇八年度四月ごろ、難しくなってきた。その理由は、JIAはまだまだ三つのオフィスを運営するほど資金力・マネージメント力がないこと、広東オフィスの責任者だったワンリズユーウェイはプロジェクトマネージメントをする上で、まだまだ雲南オフィスのカンミンから学ぶことが多いこと、中国国内に支援基盤(企業、財団、個人)をつくる上で、原田が広州で活動する必要性があることだ。これらは広西オフィスのオープンという決定を下す前にも想定できたはずだ。

# 活動停止勧告

難航する法人化計画



ヨーロピアン家屋風の雲南省のオフィス

政府機関・貴州省疾病予防治療センターはキャンブ参加者がハンセン病快復村に入り込むことで何か事故でも起こればと心配し、結局キャンブは中止となった。

湛江は外国人に対してセンチティブな地域なので、大学は外国からたくさんのキャンパーが来る活動を好まない。そこで学生たちにJIAの活動への参加を禁止する発表を行った。しかし、一部の有力な教師たちは学生たちがハンセン病快復村で活動することを評価しており、その教師のサポートにより湛江のキャンパーたちは活動を続けている。

JIAは二〇〇七年度、雲南省民生局への社団法人登録手続きに多大な時間を費やした。中国では法人格のないNGOは活動しにくい。法人格が必要になるのは、政府が管理するハンセン病快復村や小学校での活動許可を得る時、大学がJIAのネットワークに加わる上で大学側の協力を得るとき、さらに中国国内で資金集めをする場合だ。政府登録がない場合、政府や大学、スポンサー企業との交渉は全てコネを頼っていくしかない。影響力のある太いパイプがない限り、交渉は成立しない。

JIAが二〇〇七年度直面した問題は、貴州省のハンセン病快復村でのキャンブ中止、広東省西部湛江の三大学で活動の停止勧告だ。この問題を解決するため、JIA雲南オフィスのカン・サンミンとQKは雲南省民生局に法人登録の手続きを始めた。この仕事は多大の時間と労力を要する上、役人の機嫌ひとつで成功が大きく左右されるため気の遠くなるような作業だ。弁護士は協力なしには成功し得ない。スタッフは身銭を切って弁護士に相談し、膨大な書類を書き、社会的影響力のある人々を發起人として集めなければならぬ。この手続きの可否は今年四月に通知される予定であったが、七月現在もなお音沙汰なしだ。

# 拡大する活動

## 湖南・湖北省開拓

JIA広州委員会のスローガンは、「ワークキャンプの種を必要な土地にまく」。これまで広州委員会は湛江にワークキャンプの種をまき、水をやり、湛江の発展に大きく貢献してきた。二〇〇六年七月、原田は広州委員会（王軒、嚴子洲）と共に湖南省湘西地区の三つの村を調査する。広州委員会は湖南省を次の種まき地に決める。その後の十月、広州委員会はそれら三つのうちのひとつホーク村で調査を兼ねたミニキャンプをし、地元の吉首大学でキャンパーを募集する。二〇〇七年二月広州委員会主催のホーク村キャンブには吉首大学から二名が参加した。そして二〇〇七年八月には同地区シャードウーシー村でもキャンブが開催され、四、五名の吉首大学の学生が参加した。徐々に吉首の学生が増えてくる。

ワークキャンプのプレゼンテーションをする。藤田の力作のスライドを使ったプレゼンは大盛況で（パソコンのトラブルですべてを流すことはできなかったが）、多くの学生が二〇〇八年一、二月参加を希望する。しかし、湖南省一帯はこの冬、大寒波に覆われる。広東から湖南への汽車はほとんど動かない。汽車の広州駅にはチケットを求めて数十万とも百万以上とも言われる人々が極寒の中野宿した。湖南省や四川・貴州から出稼ぎに来ている人々が旧正月に実家に帰るためだ。そのような状態の中、キャンブは中止されてしまった。湖南・湖北のキャンパーが多く誕生する機会だったので惜しい。二〇〇八年夏、彼らの盛り返しに期待したい。



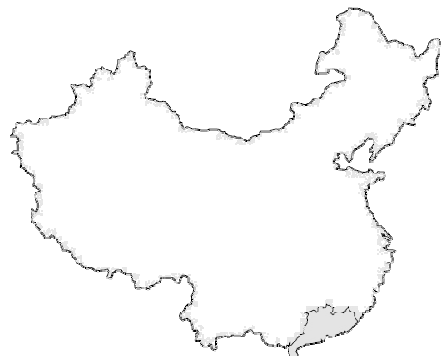
現在 JIA は中国の広東・広西・雲南・湖南・湖北にある 11 の地区にキャンパーの拠点を持っている(地図参照)。JIA のワークキャンプは、オフィスによって準備されるのではなく、これらの地区のキャンパーたちが自分たちの手でワークキャンプをつくっていく。

湖北省でもそのころ、キャンパーが育ち始めていた。広州委員会の王軒の弟・王騰が二〇〇六年八月、広東省でのキャンブに参加した。彼は湖北省三峡大学の学生で、キャンブ後同大に「Action」というワークキャンプ団体を設立する。そして二〇〇七年夏にはキャンパーを広西に送りこむ。そして二〇〇八年十一月、FIMC 関西委員会の増本夏美と藤田美由紀が吉首大学と三峡大学を JIA の頼慧慧と共に訪れ、

# 同舟愛心協会 設立



同舟愛心協会の  
初代会長 林 華



## 広東省広州地区

広東商学院、中山大学、暨南大学、  
広東工業大学、広東中医薬大学  
広州薬学院が属する広州地区

広州委員会に所属する広州薬学院に「同舟愛心協会」というワークショップのための大学公認団体が設立され、昨日その設立大会が開催された。

中国の大学では、大学の公認がないと活動しにくい。キャンパー募集のために教室を借りたり、フリマで資金調達したりなどの活動はすべて不可能だ。

会長となった林華（英語名 Poiree）は PPT でこれまでを振り返る：「何度、大学の事務局に足を運んだことか。何度、公認団体設立の計画書を書き直したことが。何度、指導教員を探すために教授の研究室を訪れたことか。すでに一年以上がたった。」

林華の眼はうるんでいる。会場は超満員で立ち見が出て、広州委員会のほかのワークショップ団体やまだキャンプに行ったこともない人がつめかけた。林華は、そんな聴衆を前にし、でかい声で、

「同舟愛心協会、正式設立！！みんな、本当にありがとう！」

とほえ、上半身を深く折り曲げる。耳が痛くなるような拍手が起こる。

# OB バカチーム



## バックアップチーム

HAのキャンパーたちは90%以上が学生だ。学生はしかし、卒業していく。卒業と同時に彼らのキャンパ経験は「B」の外に流れ出ていってしまう。

そして、残された後輩たちは大きなよりどころを失う。これでは、あまりにもつたいない。卒業していくキャンパーたちの経験をつなぎとめなければいけない。そこで、バックアップチームが二〇〇五年八月に設立された。しかし、バカチームと呼ばれる（英語の Back の発音が下手で多くの人が「Baka」と発音するため）彼らは、ほとんど組織がなく、ほとんど機能しなかった。

そして二〇〇六年八月、バックアップチームは再編成され、理事会をもつ組織となった。二〇〇七年の活動は、湖南省のハンセン病快復村ホーク村の子供への奨学金の支給、月二回ほどのイベント（バーベキュー、バスケットボールなど）、年度大会、村訪問などと整ってきた。

しかし、肝心の現役キャンパーとの絡みが少ない。とにかく、入社一年目、二年目の彼らは忙しい。なかなか会社以外のことを構えない。それでもメン

バーは現役キャンパーをより意識し始め、キャンパーたちの大学に足を運ぶようになっていく。

二〇〇七年に卒業したキャンパーはあまりバックアップチームに加入しなかったため、二〇〇八年六月に卒業するキャンパーたちとは度々交流会を設け、卒業前にバックアップチームの活動を理解してもらっている。三月にも交流会が予定されている。



交流会の様子



頼りになる OB/OG 達

# 小学校で何故キャンプ開催



## 小学校キャンプ

二〇〇七年八月、HVA 広州委員会は初めてとなる小学校で英語を教えるキャンプを開催した。多くの人々は、「HVAが小学校？ハンセンじゃないの？」という反応を示した。

このキャンプが始まったきっかけは、湖南省ホーク村(ハンセン病快復村)の田任珍(ニレ)にある(008号四ペーJ参照)。彼女は学校にいない。ハンセン病快復村内の実家で農業や牧畜を手伝っている。まだ日の出ないうちから放牧を始める。山々に彼女の歌声が響き渡る。

彼女が学校にいけない理由は学費が払えないという問題に加え、ハンセン病快復村の子供であるということだ。バックアップチームがお金を出し合いい、学費の問題は解決された。しかし、差別はそう簡単になくならない。

そこで広州委員会は彼女が通うことになる小学校でワークキャンプを開催することにす。しかし、任珍がハンセン病快復村の子供であり、キャンパーの多くが彼女のことをよく知ってはいないが、それでも彼女を特別扱いすることなく、できるだけ普通に他の子供たちと同じように接し、できるだけ任珍とクラスメートが仲良くなるように仕向ける。



ワークキャンプには準備段階からHVAの大学の学生も参加し、英語圏の文化を体験するキャンプとなった。任珍がクラスメートの間に溶け込んでいるのは写真からもよくわかる。こうして広州委員会は小学校キャンプを始めた。始めてみると、いろいろな問題が出てくる。キャンパーがたくさん来ているために子供が興奮状態になり、夜寝なくなる。キャンパーによる一部の授業が子供たちに合わず、授業崩壊のようになってしまうこと。キャンパーは子供たちをグループ分けしてワークキャンプ中のプログラムを行っていくのだが、グループを率いるキャンパーの性格(厳しい甘いなど)



がグループにありありと反映されてしまい、準備不足が露呈した。子供たちの公衆衛生問題・安全問題など…。そして、このキャンプを経験したキャンパーたちは、教育プロジェクトを行うワークキャンプにとっても興味を持った。もっといいキャンプをつくりたい。何よりも、あの子にもう一度会いたいというツナガリが生まれた。こうして広州委員会は小学校でのキャンプをつづけることにした。

この情報はHVAのワークキャンプのネットワークに乗り、各地にすぐに伝わっていく。広東省湛江・潮汕、広西桂林でも二〇〇八年夏、小学校キャンプが開催される予定だ。

# JIA 情報誌再創刊

JIA 広州委員会は情報をすばやく共有するためメールマガジンを月一回最終火曜日に発行している。いずれ運営が軌道に乗り始めたなら、企業からの広告収入を得ることも考えている。

とにかく、この仕事はたいへんだ。まず、メールマガジンを発行する上での記事が足りない。毎月の締め切りに間に合うようにレポーターたちが記事を送ってこない。そして、それを英語と日本語に翻訳する。そして記事をチェックした後、アップロードする。一度はメールマガジンがなくなりかけた。しかし、現在の責任者・ウー・ジンユーの強い想いにより、息を吹き返した。二〇〇八年三月にはデザインが一新されている。ここに二〇〇七年十二月号の記事を載せておく：

## 「藤橋キャンパーたちの永遠の村長」

記者…Seven

十月二十三日、村長から電話がかかってくる。肝硬変のため一週間ほど前に入院したという。その一週間の間で貯金は使ったが、治る見込みはないので、もう医者薬をやめてほしいのだということだ…。私は藤橋の村長の性格をよく知っている。彼は本当にどうしようもないことが起こらないかぎり、他人には絶対に迷惑をかけない人だ。

「学生」のキャンパーにならなのおのことだ。すぐに私は彼の問題がどれだけ緊急なのか分かりました。村長には私たちがみなが必要だった。

翌日の午後、マイケル・マイと相談した結果、Back Up Team(家のOG/OB会)のメンバーで寄付をすることになった。その日、ほんの少しだけと、マイケルは初めての寄付金を渡しなごらいう、「でも、あまり希望を持ちすぎてはいけないよ。この病気はもしかすると、すぐに…」。

マイケルからBack Up Teamのみんなの電話番号をもらった私は、午後になると会社のトイレに潜んで電話番号をひとつひとつ試す。最初のいくつかは全然つながらない。ようやくつながったのは穎芳というBack Up Teamの事務のボランティアだ。彼女が今回の寄付活動の責任者になり、情報を私に伝え、JIA広州委員会と連絡し、藤橋キャンプの主なメンバーと連絡したりした。

同時に、私はメールで、知っている限りの過去の藤橋キャンプのメンバー(日新(ガブ)を除く)に知らせた。ガブには電話で知らせた。村長の病気のことを知ったガブは心配で、心配で、メールをもらってすぐに各メンバーに知らせるといふ。その時彼は広州

にいなかったもので、戻ったら村長のお見舞いに行くということだった。

状況はとても緊急だったので、私は直接村長に送金するようにとメールで呼びかける。穎芳と香明は各メンバーの寄付への意識を高めるために二つの寄付方法を提案する。ひとつはまず寄付を責任者が集めて、それを村長に渡すという方法です。もうひとつは村長の口座番号を公開して直接寄付をしてもらう方法だ。

二十五日の深夜、各学校の責任者はすべて決まった。その二日間で、寄付活動が各学校で行われた。

### 2

十月二十六日金曜日、私は寄付を村長に届ける。そして次の月曜日から、各責任者からメールと電話が次々ときて寄付の額が伝わってくる。村長もキャンパーと医師の説得で、また薬を飲み始める。多くの中山大学のキャンパーは医師と直接連絡していたのは知っている。彼らは誰よりも医師の言葉の中に潜む意味がわかる…。

ネットの書込みメッセージはだんだん多くなってきた。そのメッセージの中には、私が村長の口から聞いたものもあれば、キャンパーたちが医師からのメッセージとして流したものもある。今週から、広州地区のほか、湛江地区でも寄付活動をはじめた。

「私たちは湛江にいて村に近いから、今週末にお見舞いに行くよ」。「母が寄付したいと言っている」。

「中山大学第二付属医院で白蛋白を探してみよう。その薬があれば病状が悪化するのを遅くできる。退院の見込みも出てくる」。

「最新情報を教えて。本当に心配しているから…」。

「すぐにHANDAと連絡してみる。協力してもらえないかもしれないから」。すでに就職しているキャンパーみな、休暇をとって村長のお見舞いにいきたいという…。しかし、病魔はみんなの努力を尻目に、どんどんと歩みを進めていく。村長は退院したいと言った。

十一月二日の夜、私はその日までにもらったあらゆる寄付金をキャンパーに渡す。寄付と村長宛ての手紙を持って、彼らは朝一番のバスに乗って病院にいる村長のところへと向かう。

村長は精神的には落ち着いているが、退院したいといい続けたと言うことだ。村長はキャンパーたちのお金を自分のために使いたくないのだ。

村長は絶対にこう思っただろう。もはや自分はこの状態だ。その上これ以上お金を浪費するなんて。絶対にあってはならない…。それは十一月四日だった。



この記事の著者 Seven

3

中山大学医学部のメンバーは蛋白を見つけられなかった。彼らは村長の主治医に症状を軽減させることのできるほかの薬をいくらか送り届けた。

HANDA は、村長の報告と詳細な病歴資料が必要だという。ちょうどこの週、私はそれらを持ち帰ることができた。

しかし私がお見舞いに行けない間に、村長の病状はさらに悪化していった。

十一月八日木曜日、キャンパーから電話がきて、医師が私たちに村長を村に連れて帰るように言っているという。彼の症状はさらに悪化する恐れがあり、今後移動はさらに不便になり、村へ帰るのがいっそう難しくなるからだという。私は同行することができなかった。そこで金曜日、キャンパーは一人で茂名へ行つて、村の茂おじさんと一緒に村長を村につれて帰った。

土曜日、私は銀行口座にある寄付すべてを引き出して、茂名に向かう。

出迎えてくれたのは村の茂おじさんだ。私たちはまず町で村長のために漢方薬を買う。茂おじさんは村長の主治医が処方する漢方薬を知っている。

村長は元氣そうだが、村長の病氣はたいした事ではないのかと錯覚される。村長はすばやく起きあがることもできる。しかしキャンパーは、彼の病状はすでにとっても厳しいという。

私を見ると、村長は無理をしてたくさんの話をしようとする。

「Annie はとっても元氣で、村人はみんな彼女のことが大好きだ。Panpan はすごくいい子で、すばらしい；日新(ガブ)はまだ結婚しないのか；Tara はいつオーストラリアから帰ってくるのかなあ；K と Teddy は仕事忙しいんだらうなあ...」

村長は私が知らないキャンパーの話をするときはその子たちがどれだけすばらしいかを話し、私が知っているキャンパーの話をする時は彼らの近況を尋ねる。身辺の村人と昔のキャンパーの思い出話にふけり、それは隣の村人の林伯が私と Speedo に食事ができたと伝えるまで終わることはなかった。

食事のとき、林伯は話してくれた。村長が帰ってきた夜、彼はひとり涙しながら、とても寒々としていた。そんなことを聴くと、味なんて分からなくなる。

村を去るとき、村長は私に乾し龍眼(ロンイエン)の大きな袋をたくさんくれる。「これは日新(ガブ)の、これはKの、これは Seeha のだ。他の袋は Seven、お前さんのだ」。

「村長、それは村長の分にして、村長が食べてよ」。

彼はどうしても譲らない。それどころか、怒って背中を向け、私をかまってくれない。私がすべての袋を担ぐと、やっとこちらに顔を向けてくれる。

こんなに怒る村長を見たのは初めてだった。

4

寄付はもう停止した。村長にとって、お金はすでに重要ではなかった。

あるキャンパーはインターネットで村長の状況を報告し、すぐに他のメンバーすべてに連絡する。また他のメンバーも誰か今週末と一緒に村長の見舞いに行かないかと訊いている。日新(ガブ)は天津にいて、まだ帰って来ていない。

私は村長のすべてのカルテを持って帰って来ていたので、すぐに HANDA へ郵送する準備をしていた。

キャンパーから携帯のメールで、村長が昨晩また町の病院に行ったという。茂おじさんに電話をかけた時、茂おじさんはすでに村に帰ってきていた。状況を尋ねると、少しよくなったとだけ言う。

「今週末に村長のお見舞いに行くんでしょ？大丈夫だよ！」  
そう聞いていた。十一月十四日だった。誰の心にも準備ができていないその時、十七日土曜日早朝、私は村長が亡くなったことを伝えられる。

5

このすべての過程は一ヶ月以内のことだった。この短い時間の中で、多くのキャンパーが努力を払った。彼らは私を感動させた。私たちはみんな孤独でもひとりでもない。感動したのは一回だけではない。たくさん私の知らないところでも、たくさん人がいて、私のことを知っている人も知らない人も、たった一度呼びかけただけで、すべての人が本当に、本当に暖かい返事をしてくれた。

村長はきつとこの想いを感じ取ってくれた。私が村長に電話するといつも通話中だったのは、誰かが村長と電話していたからだと思う。私はいま、村長が最後に私に話してくれたたくさんさんのキャンパーに想いを馳せる。そして、こんなにも深く、深く、心からお互いに頼り、想い合う関係を感じている。お互いがお互いから、もはや離れられないことを運命づける。  
(訳者：鄭薇)

このような記事は、インターネットで読むことができます。日本語に訳されているので、現地学生の最新情報を得るのに大いにお役立て下さい。  
アドレスは以下。

<http://www.joyinaction-webzine.org/>



多くのキャンパーに愛された、藤橋村 村長

### 市内観光

二〇〇六年一月、リンホウ村の人々の潮州観光がいに実現した。それまでぼくは何度も何度も村人を市内観光に誘っていた。しかし彼らの答えは決まって「不要」だった。村の人たちに、いまの潮州を見てもらいたかった。彼らのイメージは数十年前の状態で止まっている。人々が彼らの病気を恐れ、追い立てるように隔離していった。このイメージは彼らの心の中で当時の状況異常に増幅されているだろう。そんな状況は今ないんだと知ってほしい。

# 広東省潮汕地区

韓山師範学院、潮汕学院、スワトウ大学

## プレゼンテーション②韓山師範学院

二〇〇七年十二月二日、潮州市韓山師範学院の大ホールに立つ。目の前には二百名ほどの学生たちがおり、最前列には衛生局の役人、リンホウ医院の院長、潮州日報の記者が座っている。

二〇〇二年九月、初めて潮州市リンホウ村にいった帰り、同学院でワークキャンプの紹介をしたことが思い出される。あのときはあるクラスの教室で帰りの会の時間を使わせてもらい、四、五十名の学生の前で西尾雄志(当時FIMC関東委員会委員長、現在早稲田大学平山郁夫ボランティアセンターのインストラクター)がワークキャンプを紹介し、僕も学生の質問にちよつと答えただけだった。紹介が終わると、学生たちは机と椅子をガタガタ鳴らして帰っていった。



街の遊具で遊ぶカクチン



燎太郎と韓山師範学生



Care & Welfare のメンバー



写真展で足を止める人々

二〇〇四年一月までにワークキャンプはリンホウ村で四回開催されており、地元元学生たちも訪れるようになっていく。その事実が、彼らにふと思わせたようだが、もしかしたら、今の街にいても大丈夫かもしれない。村人はついに旅行に行くことに同意した。ひとたび同意すると、その計画で彼らは盛り上がる。湘子橋にいきたい、開元寺に行きたい、...

二〇〇七年二月には第三回目となる市内観光ツアーが開催された。リンホウの人々は旅行にもなれてきた。二〇〇四年の第一回目にはハンセン病の後遺症のある手をポケットに入れてなかなか出さなかった村人も、普通に歩いている。ごはんは市内で絶対に食べないといっていたが、今回は芝生の上で食べた。

そして、今回のプレゼンは、すべてがCare & Welfareのメンバーたちによって同団体の写真展の最終日に合わせて準備された。ワークキャンプを続けていく上で、政府やマスコミとの関係をよい状態に保つため、お世話になっている関係者も招待した。これほどの規模のプレゼンが準備されることは、二〇〇二年当時、考えも及ばなかった。

Care & Welfareにはキャンプサイトが少ない。リンホウ村、プーニン村、そしてひとつの小学校。リンホウとプーニンにはほとんど建設のワークがない。できることはすべてしってしまった。もちろんワークキャンプは建設の終了と同時に終わることはない。しかし、建設のないキャンプは、特に初めてのキャンパーにとって意義が見えにくい。そのため、リーダーがどこまでキャンプを語るかによって、次のリーダーが生まれてくるかが決まってしまう。そのため、潮汕地区はキャンパーにあまり元気がなかった。しかし、それでも、潮汕地区はこれだけの写真展とプレゼン準備することができる。その後の打ち上げがまたすごかった。彼らの熱気がガンガン伝わってくるものだった。|このような雰囲気役者は、張柔だ。彼女はとにかくリンホウの人々のことが好きだ。彼女が何とかみんなを纏め上げ、ここまでやってこれた。



PIAの協力団体・橋(QIAO) (日本)の川嶋久人は二〇〇八年春湖南省沙渡溪村キャンプに参加した。三度目となるこのキャンプのあと、彼は広東省潮州市リンホウ村を訪れる。二〇〇二年より十数回キャンプを重ねるリンホウで、彼は何を感じたのか。川嶋久人が夏のシャードゥーシーキャンプへの想いを語る。



Qiao 所属 川嶋久人 ワーク中のひとコマ

僕はキャンプ中にリンホウに行くことが決まり、そのとき初めてその村の存在を知ったのですが、どのような村なのか詳しいことは訊かず、ただ、僚太郎さんが初めてワークキャンプした村という認識しかしていなかったもので、勝手な想像を膨らましていました。それは、一口に言うと、ボロい、不便でした。でもご実際ついてみると、まったく違いました。まず、インフラが整っている。家がきれいで、キッチン、水道、水洗

トイレが完備しており、さらには給湯付きシャワーが設置されていて、すごく快適に過ごせました。僕がこれまでワークキャンプしてきたシャードゥーシーという村はまったく逆で、まず村に行くのに山道を三十〜四十分歩き、水道はなく何百メートルも離れたところに水をくみに行き、トイレは肥溜めみたいなところでしなければいけません。家はボロくて屋根が壊れているという厳しい村なので、リンホウでの生活は天気がよくて暖かいこともあってまるでリゾート(言い過ぎ)でした。

# QIAO 川嶋のリンホウ

ごしやすい村で、僕の村との違いを述べたらきりがないので、過ごしやすいかたは、単にインフラが整っていたからではありません。

それ以上に、村人全員が笑顔で迎え接してくれたということが、大きな理由としてあります。僕と真子がリンホウに着いたのは夜遅くで村人のほとんど寝ている、僕たちが村に来ることを知らないのに、次の朝目覚めてトイレに向かった僕に特に怪しむといつたそぶりはなく、普通にあいさつしてくれました。

最終日の朝食、昼食にいたっては、気持ちがいいものだから村の入り口のコンクリートの上で鍋と食器を持って来て青空の下、食べました。めっちゃうまく感じました。そして毎回食事後の食器洗いについては、これが一番(インフラにかかわって)うれしく、ありがたく感じただけですが、水道がすぐ近くにあるので非常に楽にできました。それに対して僕の村では、何百メートルも離れている水のあるところまで食器を持って行って洗わなければいけなかった。キャンプ中ワークで疲れている上にみんなの分の食器を運んで洗うのは非常に面倒くさいです(これはキャンパーの話で村人は違います)。要するにリンホウは過

そしてこの日から毎日朝食、晩と村人のところに行き話したり、お茶を飲んだり、はたまたバイジウを飲んだりして過ごしました。また、印象的だったのは、村の外に住んでいる人が毎日リンホウにやってくることでした。彼らは村人と会話したりお互いの家に行ってお茶を飲み合いながら楽しそうに談話をしていたのですが、こうした何でもないようなことが僕の村含め多くの過去にハンセン病を患い偏見・差別にさらされてきた人たちが暮らす村にとってはどれだけ難しいことかと言うほどののに、それが普通にできていることにリンホウでこれまでワークキャンプしてきた人々の努力、そして辛い過去に耐えそれを乗り越えてきた村人の力強さというもの

人との会話に窺うことができたような気がします。

そして、最も感銘を受けたのは、村人は本当に僚太郎さんのことが好きなんだなあということでした。僕が村人の家に行くたびに彼らは一緒に写った写真を見せてくれて僚太郎さんのことをうれしそうに語っていて、僚太郎さんは村人に本当に愛されてお互いは「信」で繋がっているんだなと思いました。(僕は人間は根本的に「信」で繋がっていると思います。なぜなら、映画タイタニックの中で主人公のディカプリオが極寒の海の中に沈む前に彼が愛した女性に言ったのは「Trust me?」そして彼女はこう答えたからです「I trust you.」)

おそらく僕がこれほど強い「信」で結ばれている人たちを見るのはこれが初めてです。僕の村では村人とキャンパーは仲はいいのですが(全員とではない)、まだ彼らとの間に壁があり「信」とよべるものはそこに存在しないのを今回のリンホウの人々と接するなかで感じました。そして、これからのようにしてその壁を取り払い「信」を築きあげることができるとか、このリンホウ訪問を通して僕のワークキャンプしている沙渡溪村での課題を見つけれられ、僕はその課題を少しずつ解決していき、「今日よりよい明日の沙渡溪(シャードゥーシー)」をつくっていききたいと思います。

# リンホウ誕生



リンちゃんを抱く燎太郎、嫌がられてる気が...

一月二十九日十三時五十五分、広東省広州にて娘の「りんほう」が生まれました。母子共に健康です。

名前は広東省潮州市リンホウ村(ハンセン病快復村)にちなんでつけました。

二〇〇二年に初めてリンホウを訪れて以来、六年が経ちました。

その間、リンホウ村で活動する潮州韓山師範学院のワークキャンプ団体の設立から始まり、ワークキャンプは広東の西部・広西壮族自治区・雲南へと拡大し、JIAが設立されました。現在では、広東・広西・雲南・湖南・貴州の約五十の村でのワークキャンプが、中国の四十以上の大学・韓国・日本の三団体・日本の四団体・ドイツの三団体によって主催されています。

この活動の出発点のひとつが、リンホウ村でした。そのリンホウ村の人々が、ぼくたちを精神的にサポートしてくれました。

そのサポートが、JIAの設立に大きな推進力をもたらしました。

ぼくは、リンホウ村の人々からの支援によって、活動をつづけることができている。「リンホウ」は「広東省潮州市にあるハンセン病快復村」を意味する言葉ではなくなりました。

中国キャンプの原点のひとつを意味し、中国と日本のパートナーシップの象徴であり、中国キャンプから生まれた女の子の名前です。

これまで、いろいろな面で支えてきてくださったみなさま、本当にどうもありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## カンパ募集!

初めての育児に加え、急成長しているJIAの組織改革で大忙しの燎太郎彼の頑張りには日本、中国を始めたくさんの世界中の学生をワークキャンプによって繋げています。そんな彼に、日本の皆さんの支援、どうぞ宜しくお願い致します。

(実行委員より)

振込先：郵便振替

00250-8-79833

JIAジャンパン

## 四川省復興キャンプ

電話を受けると、重慶からだだった。重慶は四川省の隣だ。彼は桂林出身で、かつて桂林ピンシャン村キャンプのうわさを聞いたことがあるという。大学生になった今年、彼は友達十名を誘って桂林の近くのハンセン病快復村に行きたいという。四川に近い彼に地震後の復興キャンプを開催できるかをきいてみると、答えは、「いまは無理」だった。政府が素人のボランティアが被災地に入ることを禁止しているという。理由は、

- 1) いまはまだ余震があるので危険なため
- 2) 伝染病の流行が考えられるため

政府は、壊滅した街を街ごとそっくり引越すことを考えているとか。その場合、たくさんのボランティアが必要になる。まず声がかかるのが重慶の大学だろう。その際、JIAも絡めるかもしれない。

五月三十日 MIXI日記より



猪突盲進  
中国に6000人といわれるハンセン病患者の約10パーセントを占めるワークキャンプのメンバーをつくるべく「猪突盲進」は活動する日々を日記

## 原田燎太郎最新情報

ウェブサイト「猪突盲進」

<http://blog.campan.info/tynoon/>

## 会計報告

二〇〇七年四月〜二〇〇八年三月

交通費	604,148
宿泊費	25,470
事務費	55,260
通信費	112,995
交際費	8,640
生活費	45,000
その他	450,885
合計	1,302,398

※6月より生活費はJIAから支給。

## 二〇〇七年度 ワークキャンプ開催報告

省	村	期間	プロジェクト	参加者数
広東	ダーヤ	7月16-20日	村人訪問	20
	ルオカン	7月26日-8月5日	日常ケア	25
	シンニン	7月19-22日/1月22-26日	農作業,日常ケア/家事手伝い	11/19
	グアンジュウ	8月8-17日/2月12-21日	壁塗り/台所修理・建設、家具作成	26/24
	シューウェン	8月9-20日	舗装	24
	ロンチュアン	8月8-19日/2月12-19日	水道管交換/屋根修理	25/20
	グイフー	1月21-24日	教育	32
	シーカン	1月20-26日	家事手伝い	28
	ガンシーチン	1月21-24日	家事手伝い	23
	トンチャオ	2月12-21日	排水溝整備、屋根修理	26
	グアンニン	2月24-30日	貯水槽	21
	シューウェン	2月14-24日	休憩所作成、水道管交換	22
	リンホウ	8月4-14日/1月20-23日	シャワー室/掃除、映画鑑賞	36/23
	シーカンジャン	8月1-11日/2月14-24日	屋根修理	17/25
	ヤンカン	8月9-19日/2月21-25日	台所建設/家事手伝い	26/18
	ティエンシン	8月7-16日	ひさし設置	22
	貴州	シンチョン	8月12-22日	校庭整備
広西	バークアン	7月21-26日/1月16-23日	家事手伝い	15/16
	バーラン	7月21-26日/1月26日-2月4日	家事手伝い/農作業	14/26
	ディンウォー	7月21-26日/2月16-21日	家事手伝い	10/13
	ピンシャン	8月2-10日/1月27日-2月1日	里帰り/水道管修理/旧正月飾りつけ	8/22/21
	ハンチョン	8月10-19日/2月16-23日	橋修理/道路修理、家事手伝い	22/19
	ジャオロンタン	7月28日-8月1日/1月26日-2月2日	教育/倉庫修理、階段修理	14/23
	ジャーピン	8月10-19日/1月24日-2月3日	屋根修理/掃除、舗装、教育	20/16
	ロンガン	8月6-18日/2月17-21日	舗装/家事手伝い	25/14
	サンハー	8月8-18日	煙突修理	24
湖南	ガンズーピン	7月16-25日/1月26-30日	教育/教育準備	21/6
	シンミン	1月24-27日	電気設置	15
	ホークー	8月1-21日	水道	26
	シャードゥーシ	8月8-18日/2月14-23日	トイレ、シャワー室/水道設置	17/25
	雲南	シャンシーベイ	7月18-25日	農作業
	ユーアー	7月18-25日	農作業	15
	ホアンチャオベイ	8月12-22日/1月21-28日	貯水池/水源整備	24/26
	マーイートゥイ	8月12-22日	トイレ建設	18
	ノーアー	8月12-22日	トイレ建設	21
	シャオシュイタン	8月12-22日/1月21-30日/2月12-22日	貯水池/水道設置	21/31/22
	トンムーホー	1月21-31日	教育	29
	ホアジエ	1月13-24日	家事手伝い	8

2007年度 (2007年4月—2008年3月) ワークキャンプ参加者 1197名

発行：原田燎太郎を支援する会 執筆：原田燎太郎 編集：吉田亮輔 校正：加藤拓馬 印刷：早稲田大学 西尾雄志